定助郷無き驛場も有之たる由、○中略　當時は五海道共○東海道、○中山道、○甲州道中、○日光道中、○水戸海道、都て助郷相增、不殘定助郷に成、故、定之字を拔、助郷と唱、三役之高掛り物御免也、

○按ズルニ、此書奥州道中ヲ擧ゲズシテ水戸海道ヲ擧ゲタリ、前掲ノ諸書ト同ジカラズ、

〔五街道宿御取扱筋秘書〕五海道文字之事

一東海道　海端を通候に付海道と可申

〔皇都午睡三編中〕品川宿は、東海道の咽首なれば、陽氣なる事此上なし、高繩より茶屋有て、品川宿の中央に小橋あり、上は女郎錢店、橋より下を大店と云ふ、

〔一話一言二〕五十三驛

山谷詩、鬼門關外莫言遠、五十三驛是皇州、

本邦の詩人、東海道を五十三驛といふは、是に本づける歟、○又見倭訓栞三十一

〔五驛便覽〕東海道

一品川 武州荏原郡	御料	江戸より貳里半	一川崎	同	貳里半
一神奈川	同	壹里九町	一程ヶ谷 相州鎌倉郡	同	貳里九町
一戸塚	同	貳里	一藤澤 同國高座郡	同	三里半
一平塚 同國大住郡	同	貳拾七町 馬入川舟渡	一大磯 同國陶綾郡	同	四里 酒匂川歩行渡
一小田原 同足柄下郡	大久保加賀守城下	四里八町			
一箱根 江川太郎左衛門御代官所	分郷	三里廿八町 關所あり			
一三島 豆州君澤郡	江川太郎左衛門御代官所	壹里半	一沼津 駿州駿東郡	水野出羽守城下	壹里半
一原 同	御料	三里貳拾貳間	一吉原 同國富士郡	同	貳里半拾貳町 富士川舟渡
一蒲原 同國庵原郡	同	壹里	一油井 同	同	貳里拾貳町 興津川舟渡

東海道